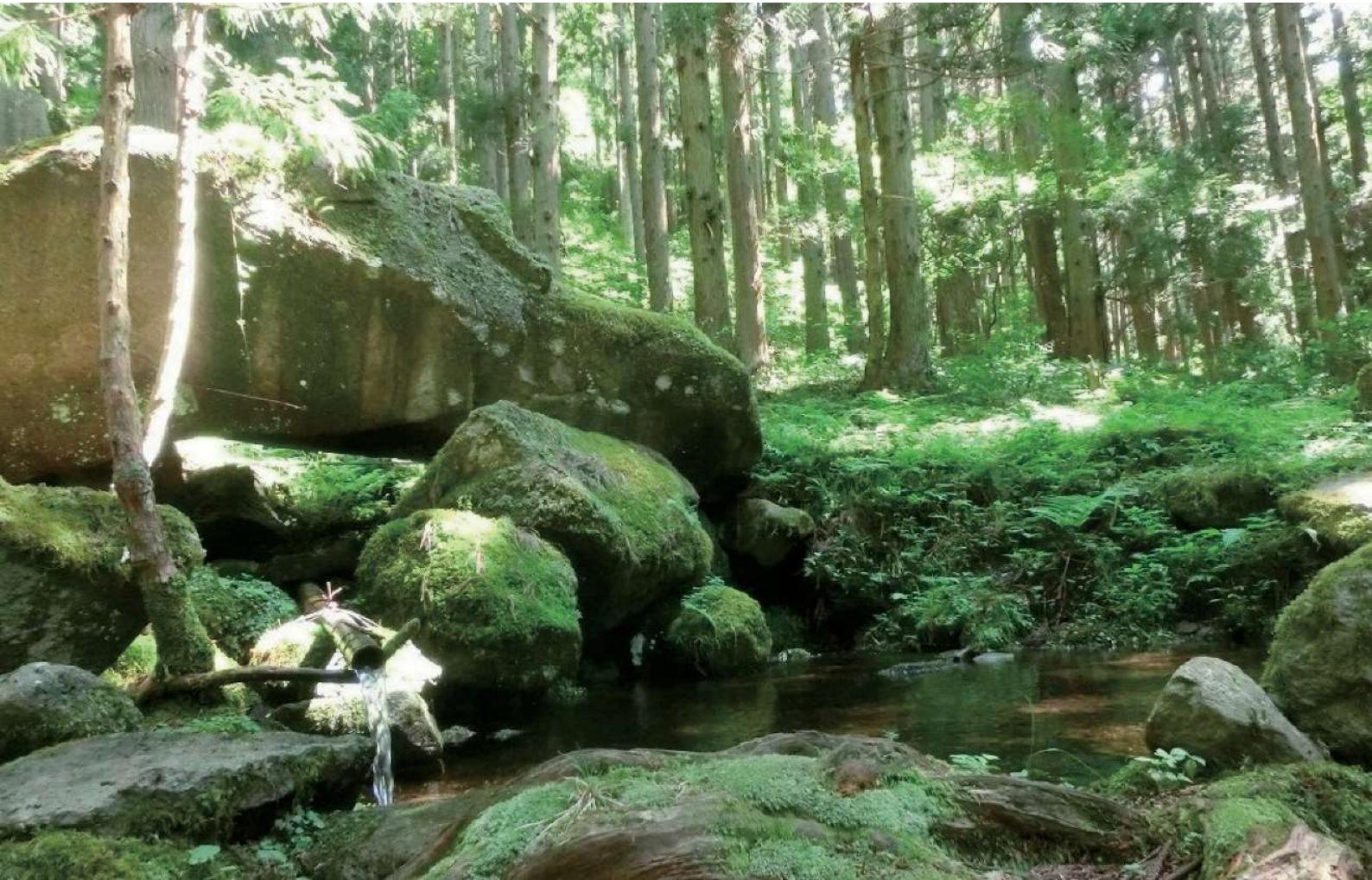


2021

環境報告書

Environmental Report



磐梯西山麗湧水群「龍ヶ沢湧水」



日曹金属化学株式会社

2021

環境報告書 Environmental Report

CONTENTS

P2 会社概要

P3 ごあいさつ

P4 お客様・社会の信頼に応えるために

コンプライアンスの徹底

C S R活動マネジメントシステム

C S R活動の推進

C S R関連監査・審査等

P5 主な活動報告

1 環境保護

省エネルギー

大気や水質の汚染防止

環境負荷低減に貢献する事業取組み

2 労働安全衛生

労働安全衛生への取組み

P8 環境美化活動

各工場紹介／会津工場・千葉工場



表紙／龍ヶ沢湧水（撮影者：安部 克）

日本名水100選に選ばれた磐梯西山麓湧水群。なかでも、龍ヶ沢湧水は代表的な湧水で、猫魔山系の火山活動によってでき上がったといわれています。

会社概要

商 号 日曹金属化学株式会社
NISSO METALLOCHEMICAL CO.,LTD.
本 社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町21番7号兜町ユニ・スクエア4階
TEL (03) 4586-7890 FAX (03) 6774-8498
会 津 工 場 〒969-3393 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字溜水1372
千 葉 工 場 〒290-0045 千葉県市原市五井南海岸12-32
会 津 営 業 所 〒969-3393 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字溜水1372
創 立 年 月 設立1983年8月
資 本 金 100百万円

事業内容

①環境開発事業

高温熱分解法(還元焙焼法・焼却法)により産業廃棄物の無害安定化・減容化(中間処理)を行っています。またフロン破壊事業を行っています。

【処理能力】

産業廃棄物:最大 210 t／日 フロン破壊:最大処理 4.3 t／日

②非鉄金属事業

電炉業界で発生する製鋼煙灰から回収した亜鉛を原料に、亜鉛・アルミニウム合金を製造販売しています。また、有価金属の回収にも取り組んでいます。

【製品】

自動車部品等に使用されるダイカスト耐摩耗性亜鉛合金、JIS亜鉛合金、アルミニウム合金、電気鉛、貴金属

③工業薬品事業

廃硫酸を基本原料に各種硫酸製品を製造販売しています。

また、顔色剤やP E S樹脂の原料となるビスフェノールSの製造販売を行っています。

【製品】

濃・薄・発煙硫酸、無水硫酸(日曹サルファン)、亜硫酸、重亜硫酸、ビスフェノールS(B P S)

会社沿革

1928年(昭和3年) 高田商会大寺製錬所(1916年:大正5年創設)の経営を日本曹達株式会社が継承

1960年(昭和35年) 会津工場でサルファン製造開始

1965年(昭和40年) 日曹金属(株)として日本曹達株式会社より分離独立

1972年(昭和47年) 産業廃棄物処理事業開始(シアン廃液)

1977年(昭和52年) (株)日曹千葉リファインで廃硫酸から硫酸及び硫酸化合物の製造開始

1980年(昭和55年) 会津環境分析センター設立

1983年(昭和58年) 日曹金属化学株式会社として発足

1991年(平成3年) (株)日曹千葉リファイン(現千葉工場)を合併

1997年(平成9年) フロン破壊事業開始

2000年(平成12年) 会津工場でISO14001・千葉工場でISO9001認証取得

2002年(平成14年) 会津工場でビスフェノールSの製造開始

2003年(平成15年) 全社でISO9001認証取得

2016年(平成28年) 会津工場が優良基準適合認定事業所に認定
(産業廃棄物処分業)

2018年(平成30年) 会津工場が優良基準適合認定事業所に認定
(特別管理産業廃棄物処分業)

2021年(令和3年) 資本金を10億円から1億円に減資(1月26日付)





日曹金属化学株式会社 代表取締役社長
(CSR推進委員会委員長)

森井 章夫

「飛躍」

環境報告書2021年度をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2019年末に中国で確認された新型コロナウイルス感染症は、2020年に入り、アジア、欧州、米国などで急速に拡大し、パンデミックの状態に陥りました。日本国内の経済も大きな影響を受け、景気は厳しさを増すことになりました。このような状況下で企業としての働き方の変化が問われる一年だったと思われます。

日曹金属化学では、各事業所で新型コロナウイルス感染症への対策を取りながら、長年培った化学品製造や合金製造などの技術・知見を駆使し、皆様からの要求に応えて参りました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で大きな変化が生じた国内産業の事業活動に対しても、当社の産業廃棄物処理技術を以て新たな廃棄物にも積極的に取り組みながら社会貢献を続けて参りました。

私たちの事業活動は、働く人達がひとりひとりの人格を尊重し、ゆとりや豊かさを実感し生きがいを持って働いていける職場づくり、未来へ残す大切な環境を守り、地域とのコミュニケーションを取りながら進める企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility、(CSR)をよく認識し、法律を遵守し環境保全に配慮しながら、事業活動を通じて社会貢献を続けて参ります。

本報告は、我々の活動をCSRの観点からまとめたものです。お手にとってご覧頂き、当社の活動について、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



お客様・社会の信頼に応えるために コンプライアンスの徹底

「コンプライアンス宣言」の制定

当社は法令、社会規範、倫理、社内規程等を遵守し、公正・誠実な競争による事業活動を行うためにコンプライアンスの周知徹底を図っております。

2007年にはコンプライアンスに対する会社としての考え方を示すため「コンプライアンス宣言」を制定・公表しました。この宣言に基づき、当社はコンプライアンスを重視する企業風土を醸成しております。

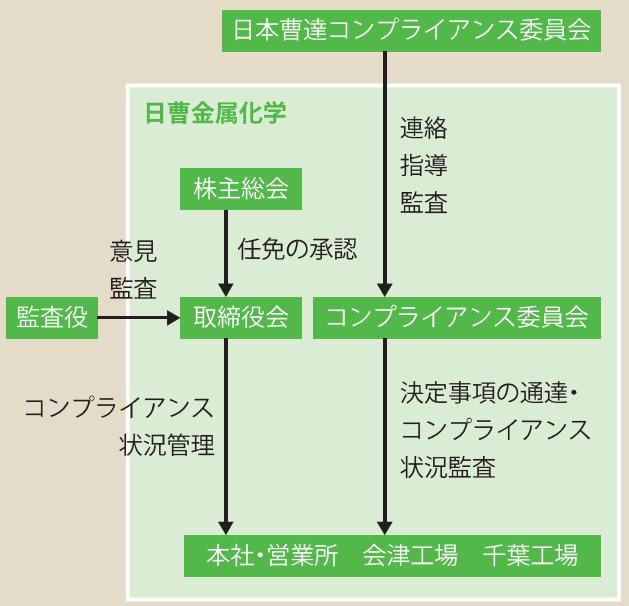
コンプライアンス体制

「コンプライアンス宣言」を具体的に進めていく為に、社長を委員長とし役員全員で構成されるコンプライアンス委員会を定期的に開催しています。同委員会で基本方針・推進計画を定め、これに基づいた実施状況を確認し、コンプライアンスのP D C A※サイクルを回しています。

また、コンプライアンスの意識・認識の強化を図るべく、毎年9月を「コンプライアンス強調月間」として各種の行事を計画実施しています。強調月間中は、社長メッセージを社員全員に配布するとともに、コンプライアンス意識を調査するアンケートの結果を周知しています。さらに、コンプライアンスについて社内外の講師による講演会を開催し、また、外部研修会へ参加しています。このほか、社内募集した標語を日めくりにして毎日呼称する等の活動を行っています。

※PDCAサイクル:Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の略。計画を実行して評価し、改善することで次の計画につなげていく活動。

コンプライアンス体制



CSR活動マネジメントシステム

CSR活動の推進

CSR活動

当社のCSR活動は、今までのレスポンシブル・ケア(RC)活動の中で培った「自主的改善活動」を基に、「社会的な責任」を明確にするCSR活動を取り入れ、下記の活動方針を定めました。

CSR活動方針

1. マネジメントシステム 及び 組織統治

「法令を順守し健全で透明な企業活動」を行うため、RC活動理念を基本に具体的な目標設定、定期的な見直しにより、継続的な改善を実行します。

CSRで云う7つの社会的責任の原則(説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重)に則り事業活動を行います。

2. 環境保全

製造プロセス改善、消費エネルギーの削減努力等を通じて、廃棄物のリサイクル化・削減に努め、事業活動が環境に与える影響を最小にします。

3. 保安防災・BCP

重大な設備災害を防止し、安全で安定した生産活動を推進し、継続的な改善を行います。

BCP(事業継続計画)を確立し、継続的に改善を行います。

4. 労働安全衛生

製造プロセス、設備設計、操業技術を改良することで、事故・災害の防止に努め、元気に働く喜びを感じることのできる職場づくりを推進します。

5. 物流安全・品質保証・消費者課題

製品輸送に係る事故リスクを低減し、物流事故の未然防止を図ります。作業の効率化と集約化により、製品とサービスの品質維持を図ります。培ってきた技術と知見を活かした事業活動を行い、顧客満足の向上を図ります。

6. 化学品・製品安全

製品、及び取扱う化学品の危険性、有害性を把握し、取扱い時、物流時、廃棄時の事故・災害の防止を行います。

7. 社会との対話・コミュニティ参画

及び開発・公正な事業慣行・コンプライアンス環境・安全・健康について利害関係者との対話をを行い、地域社会の環境保護・安全についての諸活動に参加して、社会からの信頼向上に努めます。

法的要求事項及び社会的要求事項を順守した事業活動を行い、透明性を高めます。

8. 人権・労働慣行

人権を尊重し、その重要性及び普遍性の両方を認識し行動します。法の支配及び社会の公正意識を認識して、労働慣行に反映します。

主な活動報告

環境保護

CSR関連監査・審査等

当社は定期的にCSRに関する監査を実施し、また外部審査等を受審しております。

内部監査

・CSR監査

事業所CSR管理責任者が監査責任者となって、全部署を対象に環境、安全、品質の内部監査を実施し、工場のCSR活動を評価しています。監査結果はCSR推進委員会に報告され、次年度活動へ反映し、継続的に改善しています。

・親会社のCSR監査

親会社である日本曹達(株)の監査チームによるCSR監査を受審しています。

<2020年度 監査実績>

【日曹定期監査】 9月 千葉工場

【日曹特別監査】 実績なし

【日曹安全監査】 実績なし

外部審査・診断

昨年2015年度版(ISO14001、ISO9001)更新審査を受審したほか、防災専門機関による設備安全を重視した防災診断は、コロナウイルス感染予防の観点から中止となりました。

2020年度 審査実績

会津 5月 防災診断(コロナの影響で中止)

8月 JCQA維持審査(14001:2015年度版)

9月 JCQA維持審査(9001:2015年度版)

省エネルギー

「限りある資源を無駄なく活用する」ため、日々の活動を継続しています。

■エネルギー利用効率の向上

省エネルギーに積極的に取り組んでいます。

会津工場では、廃油等を利用することで燃料を節減しています。また、2018年度にボイラー燃料を灯油からLNGに変換しました。

千葉工場では、再生油を利用し燃料重油を節減しています。また、廃熱を利用したボイラーを使用しています。今後も省エネルギータイプの機器の導入を進め、エネルギー利用効率の向上を推進していきます。

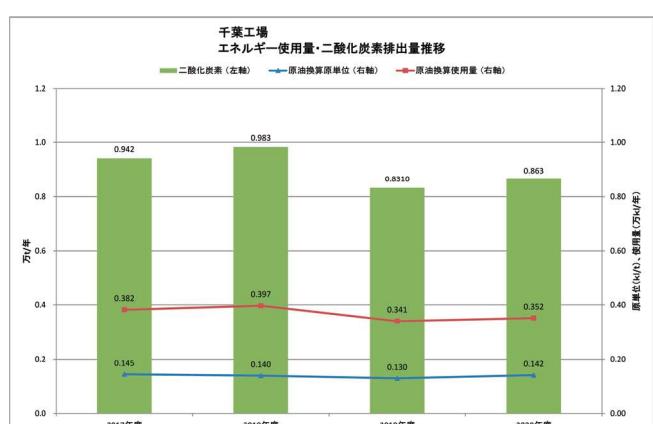
【会津工場】エネルギー使用量・二酸化炭素排出量推移



※受託産廃物が燃えにくい物が増え、カロリー不足から再生油の使用量が増えました。

※受託廃棄物の性状の変化(燃えやすい・燃えにくい)により二酸化炭素は減少しました。

【千葉工場】エネルギー使用量・二酸化炭素排出量推移



※再生油の使用量減によるC重油・灯油使用量増と原料硫酸等の熱量含有成分減によりそれぞれの項目で増となりました。

主な活動報告

環境保護

大気や水質の汚染防止

地球の大切な資源である大気や水を守るために、環境負荷低減に取組むと共に、日々監視を続けています。

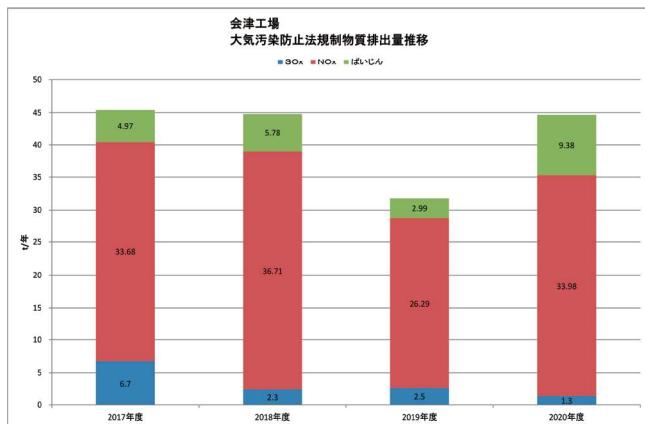
■大気汚染防止の取り組み

硫黄酸化物(SO_x)や窒素酸化物(NO_x)を低減するため、各工場で対策を実施しています。会津工場・千葉工場では、SO_x、NO_x、ばいじんをアルカリ洗浄と電気集じん機(ミストコットトレル)で捕集して、大気への排出を抑制しています。

会津工場では、産業廃棄物処理炉から発生するダイオキシン類(DXNs)を高温で熱分解するとともに、燃焼ガスを急速冷却することで再成を防止しています。

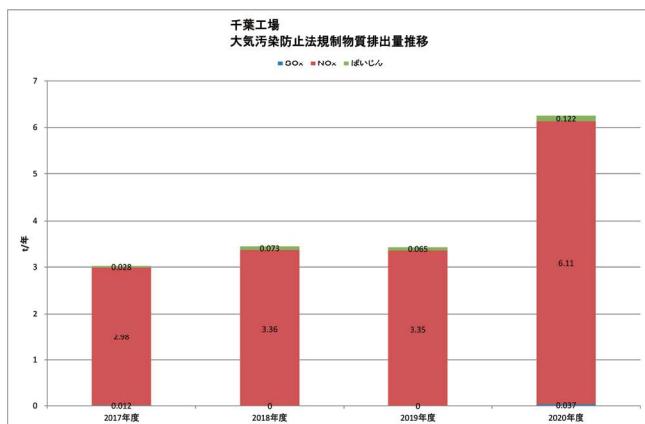
また工程内を監視計器等で常時監視し、迅速で適切な対応をとることで環境負荷の低減に努めています。

【会津工場】大気汚染防止法規制物質排出量推移



※毎年処理する産業廃棄物の種類が異なるため、規制物質の排出量が変動します。

【千葉工場】大気汚染防止法規制物質排出量推移



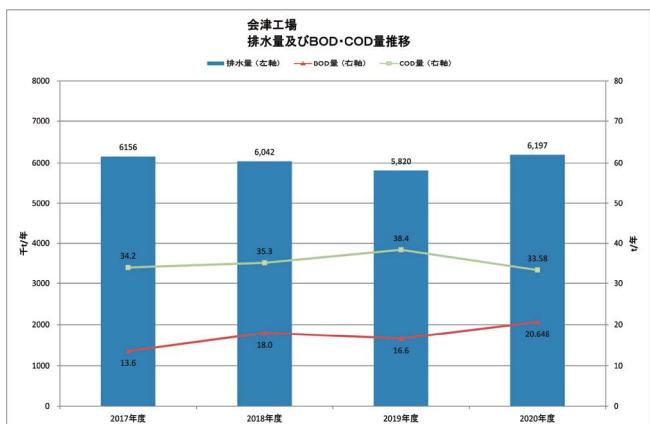
※C重油・灯油使用量増により規制物質の排出量が増えました。

■水質汚染防止の取り組み

工場排水は、固体分を回収し、重金属等を除去することで放流排水の環境負荷を低減しています。

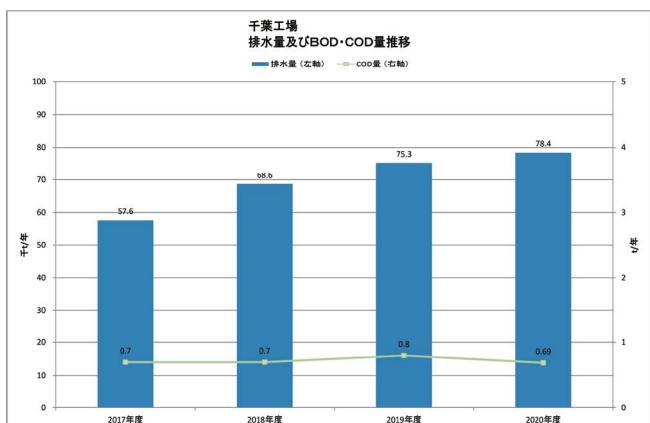
また監視計器等で排水処理施設を常時監視し迅速で適切な対応に努めています。

【会津工場】排水量及びBOD・COD量推移



※取水時のBODが高かったことに影響されています。

【千葉工場】排水量及びBOD・COD量推移



※千葉工場の工場排水は、日本曹達千葉工場に排水処理を依頼しています。上記の数値は最終排水処理する前の当社工場出口の数値です。

■優良基準適合認定事業所 認定

※通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が審査して認定する制度です。

*2016年度産業廃棄物処分業の認定を受けました。

*2018年度特別管理産業廃棄物処分業の認定を受けました。

主な活動報告

労働安全衛生

環境負荷低減に貢献する事業取組み

自社の環境負荷低減にとどまらず、よりクリーンな環境を目指して技術開発を進めています。

■パラジウムの回収・リサイクル

医薬品の合成過程では、パラジウム(Pd)が触媒として使用されることがあります。

当社は、非鉄金属製錬の知見を生かし、亜鉛の還元作用を利用することで、医薬品を製造している親会社の産業廃液からパラジウムを回収し、リサイクルを行っています。

■焼却法によるフロンの破壊

会津工場では横浜国立大学の指導を受け、ロータリーキルン炉(回転式焼却炉)がフロン破壊に適した設備である事を実証し、1997年(平成9年)にフロン破壊処理業者として許可を取得しました。以降、回収フロン(ガス・液)を混焼法により破壊(熱分解)処理しています。

■解体リサイクル設備

会津工場で取り扱う産業廃棄物は、焼却処理が必須でしたが、メッキ設備(産業用機器類)などの不可分一体産業廃棄物について、リサイクルが可能な箇所を分解し、有害物付着部分を適切に除去して、再生利用材と焼却処理が必要なものに選別する解体設備を設置し、リサイクルを推進しています。

■場外クリーンアップ～地域貢献活動～

【会津工場】

・磐梯町内道路の清掃活動

新型コロナウイルス感染症防止の観点から、密を避けるため少人数による工場敷地境界線の清掃活動を実施しました。

【千葉工場】

・国道沿線の清掃活動

周辺企業と合同で、ボランティアサポート活動として国道16号沿いの清掃活動を実施し、周辺の美化活動に従事しております。

労働安全衛生への取り組み

5Sを徹底するとともに各種パトロールによって安全活動状況をチェックしています。またリスクアセスメントによる事故・災害の発生防止に取り組んでいます。

■労働災害を防止し安全を確保

5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の確保が労働災害防止の第一歩と位置づけ、全事業場で5S運動を展開しています。

また、労働安全のために「作業前の危険予知(KY)^{※1}、作業中の指差呼称、相互注意、作業後のヒヤリハット抽出^{※2}」を実施することで災害を防止しています。

※1 危険予知(KY):作業に潜む危険性を予め予測し、対策を確認しておくこと。

※2 ヒヤリハット抽出:作業中等、事故が起きそうな状況に遭遇しヒヤリとしたハットしたことを記録し、危険源として皆で共有することで労働災害を未然に防ぐ活動。

■職場パトロールの強化による安全活動の推進

<各工場での取り組み>

【会津工場】

毎月の安全衛生委員会は勿論、加えて下部組織として安全活動に特化した「安全小委員会」を毎月2回実施しております。

また、安全通信を発行することで全従業員への啓蒙を図っております。

●会津工場の主な取り組み

職場巡回パトロール、職場5Sパトロール、作業手順順守パトロール、定修パトロール等

【千葉工場】

職場によるパトロールと管理職による毎日の安全パトロールを通して、不安全行動の防止に努めています。また、設備巡回パトロールも毎日実施し設備保全に努めています。

<報告事項>

・会津地区 産業安全衛生大会表彰

2020年 10月 安全功労者 二瓶雅孝

労働災害発生件数の推移

年度		2017	2018	2019	2020
会津	社員	0	0	0	0
	協力	0	0	1	0
千葉	社員	0	0	0	0
	協力	0	0	0	0

※労働災害:休業災害

労働災害強度率の推移

年度	2017	2018	2019	2020
会津工場	0.000	0.000	0.000	0.000
千葉工場	0.000	0.000	0.000	0.000

労働災害強度率=労働損失日数*/延労働時間×1,000時間当たり

*身体障害を伴わない労働損失日数=休業日数×(300/365)

環境美化活動

日曹金属化学株式会社会津工場は、福島県会津地方中部の磐梯山および猫魔ヶ岳の南斜面に位置している磐梯町のJR東日本磐越西線磐梯町駅前にあります。

当工場は、磐梯町駅利用者が最初に見る景色であり、磐梯町の玄関としての役目があるとの考え方から、地域に溶け込み人々の心を安らぐ景色にするべく環境美化に取り組んでいます。

老朽化設備の撤去・新事務棟建設・法面整備等を進め、昨年12月に新事務棟が完成し、その周辺にある法面の整備も順調に進んでいます。来春には、法面にきれいな花が咲き人々の目を楽しませてくれることでしょう。

日曹金属化学は、地域に密着し、地域の皆様が誇れる会社を目指し、今後も継続して環境美化に力を入れていきます。



工場からの景色(会津工場新事務棟と宝の山磐梯山)

各工場の紹介

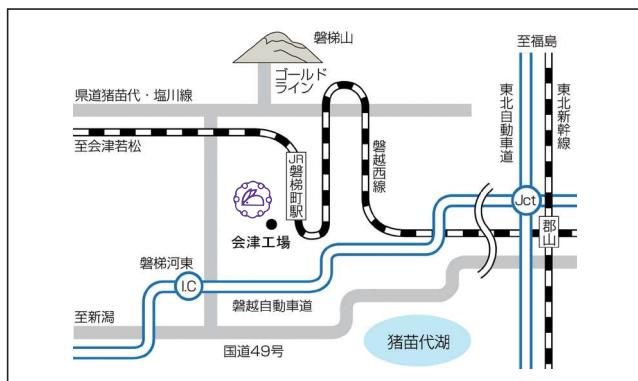
会津工場

会津工場は、福島県の名峰磐梯山の南、日橋川沿いに位置し、自然に大変恵まれた地域にあります。

大正5年、高田商会が創設した亜鉛精錬工場を昭和3年に日本曹達が継承、その後亜鉛精錬を主要事業としてきました。

現在では産業廃棄物処理、フロン破壊処理、各種亜鉛合金の製造、ビスフェノールSの製造をおこなっています。

今後とも地域の皆様と積極的にコミュニケーションを図るとともに、環境に配慮した安全最優先での操業を継続して行きます。



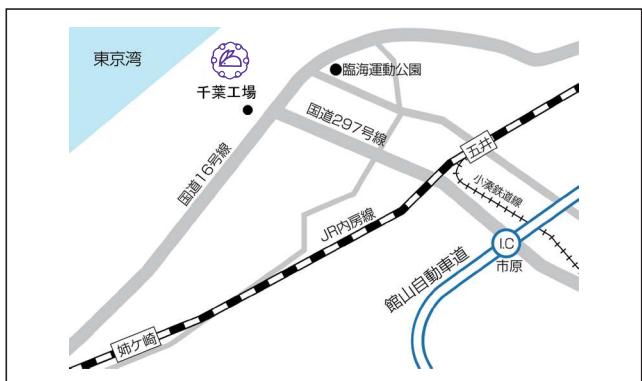
取締役工場長
水内 晋



千葉工場

千葉工場は、千葉県の京葉コンビナート地区にあります。1976年に使用済み硫酸のリサイクルを目的に創業しました。

大気汚染物質や産業廃棄物を削減するとともに、省エネを推進することで、事業活動での環境保全に努めて参ります。



参与工場長
間仲 純夫



日曹金属化学株式会社

この報告書へのお問い合わせは下記までお願いします。

日曹金属化学株式会社 生産企画部

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町21番7号兜町ユニ・スクエア TEL(03)4586-7890

URL <http://www.nmcc.co.jp>